

第12回「みどり香るまちづくり」企画コンテスト

香って食べて元気を育む 七ヶ浜ファームガーデン



団体名：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード
株式会社 近藤哲雄建築設計事務所
株式会社 グリーン・ワイス

企画の狙いやアピールポイント

生きる活力を育むコミュニティファームガーデン

「七ヶ浜みんなの家きずなハウス」(以下きずなハウス)は震災復興支援のプログラムの一環として特定非営利活動法人HOME-FOR-ALLにより平成29年7月に建設されました。震災で遊び場を失った子どもたちが安心して楽しみ学べる居場所や、地域の人々の交流の場となり、みんなの心の故郷として広く親しまれています

植樹場所は、町内外から毎月1,300人の人々が足を運ぶきずなハウスの庭園を予定しています。ここでは、幅広い世代が利用する公共施設の敷地内かつ入口にあり、公共施設利用者が必ず通る場所にあります。訪れる人々が豊かな緑と心休まる花の香り、海風が草花を揺らし奏でる命の音色に触れながら、深い癒しと生きる活力を育むコミュニティファームガーデンにしていきます。

地域の魅力創出と災害に強い町づくり

今年9月、震災後も「この町に住み続けたい」「自分の力を町のために活かしたい」と願って活動する町民が集り、ネットワーク団体『きずなネット』を立ち上げました。このメンバーが主体となり、近隣シェフなどと協力しながら、自分たちの手で育てた作物で、災害時も命と健康を守る保存食(漬物や乾物、シロップなど)や、リラックス効果の高いハーブティー、ポップリなどを作るワークショップを行ないます。植物を通して地域の魅力創出や人材発掘に繋がります。

また、この場所は高台にあり、津波避難スペースにもなるため、シンボルツリーに高木のカツラなどを植えれば避難の目印にもなります。

このように「命を育みつなぐ環」を作る過程が、持続可能な災害に強い町づくりへの一歩につながります。

過ごしやすい居場所・交流空間づくり

植物は心地よい香りや屋外空間を創出するだけでなく、植物の蒸散効果や路面温度の低下を通じ、屋内の交流スペースの環境向上への寄与を図ることができます。きずなハウスは設計段階から庭や広場と一体に利用できるように形態を調整するなど外構を考慮して計画されました。外構をつくっていくことで建築と一体となった環境が創出されます。

香りを使った保存食

調理を工夫することで様々な香りを味覚で楽しむことができます。例えば春は桜の香りを楽しみ、収穫・調理をしたあとは春の香りを保存することができます。その他にブルーベリーやジューンベリーはジャムとして香りを保存できます。庭で育てた樹木を活用して保存食づくりをおこないます。



桜の酢漬け・塩漬け・シロップ漬け

紹介文

コンセプト1 香りがもたらす地域の活力

被災地の子ども達や町民の憩いの場『七ヶ浜みんなの家きずなハウス』の庭に、優しい香りで心を癒す草花と、生命のエネルギー溢れる樹木や野菜でコミュニティファームガーデンを創り、復興道半ばの町民の活力回復に貢献します。

コンセプト2 命の環からまちづくりへ

②「植物を育て、香りを楽しみ、食べる」という経験の中から、子ども達が町民と共に、生きる力を学び、喜びを分かち合う拠点としてこの場所を活かし、環境に優しく災害にも強い人づくり、町づくりを進めます。

企画の場所が分かる地図



計画敷地は公共施設の入口にあり施設利用者が必ず通ります



事業計画

下記のワークショップは植物の植え付け期、収穫期に合わせて定期的・継続的におこないます。

1 植栽ワークショップ



地域のみなさんと一緒に花・木・草を植えます。

2 育て方講座



講師を招いて地域のみなさんで管理が出来るように育て方を学習します。

3 収穫ワークショップ



果実や畑で育てた野菜を収穫します。

4 調理ワークショップ



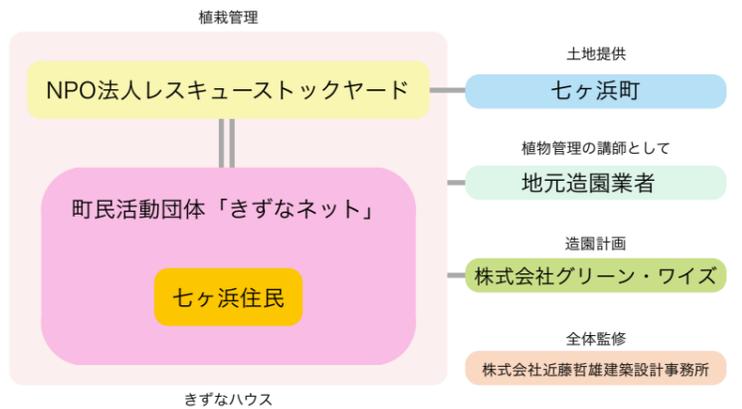
敷地内でとれた野菜をつかって料理体験をおこないます。

樹木・草花の見頃

香りの樹木	株数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カツラ	2					●				●	●		
イロハモミジ	2				●	●					●	●	●
シラカシ	1									●			
ナンテン	2	●				●	●					●	●
ジンチョウゲ	2		●	●	●								
クレマチス	5				●	●	●	●	●	●	●		
シャリンバイ	5					●	●				●	●	
チャノキ	2									●	●	●	
ウメ	2	●	●	●		●	●						
カキノキ	2					●				●	●	●	
ハマナス	2				●	●	●	●					
ブルーベリー	5			●	●		●	●	●				
ジューンベリー	5				●		●						
キンモクセイ	1									●	●		
モミジ	1				●	●				●	●		●
アオダモ	1				●	●					●	●	
イチョウ	1										●	●	
コブシ	1				●								
タブノキ	1				●	●			●	●			
トチノキ	1					●							

香りの樹木・宿根草・野菜	株数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シナノキ	1						●	●					
キンカン	1	●								●			●
ユキヤナギ	1												
ローズマリー	5	●	●	●	●	●						●	●
バジル	5						●	●	●				
カモミール	5			●	●	●	●	●					
ルッコラ	5						●	●	●	●	●	●	●
ペパーミント	5			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
スペアミント	5						●	●	●	●	●	●	●
レモンバーム	5				●	●							
トマト	5						●	●	●	●	●	●	●
ピーマン	5						●	●	●	●	●	●	●
ナス	5						●	●	●	●	●	●	●
芝	20												
クローバー	20												
シロツメクサ	20				●	●	●	●	●	●	●	●	●
バラ	10				●	●	●	●	●	●	●	●	●
ラベンダー	10									●	●	●	●
セージ	10				●	●	●	●	●	●	●	●	●
レモングラス	10									●	●	●	●

事業体制



きずなハウスの運営団体であるNPO法人レスキューストックヤードのサポートを元に、七ヶ浜町民が集い立ち上がった「きずなネット」を中心に地域の方々が主体となって植物を育て管理をし活用する体制を整えています。

企画名

かおり de 縁 JOY 農 ~かおりでえんじょいのう~

「香り」「彩り」「生き物の賑わい」のある農的風景を楽しむ散歩道

かおりの植物を用いた安全安心な食の発信田づくり

企画団体



じねんしょ; 「自然おこしは地域おこし」を合言葉に、自然を生かした仕事と学びの場づくりによって、「人と自然」「人と人」「人と自然」プラス「時」を結びあう活動を展開中

企画の紹介

地域と農林業の衰退を象徴する雑草の覆い茂った耕作放棄地。その光景を目のあたりにしながらの散歩は、どこか足が重くなります。ここに、香りの植物を植栽することで、**活気ある新しい農的風景と散歩が楽しくなる道、農や生き物との触れ合いの場**を創出していけないだろうか——
香りの植物を農薬や肥料を代替するものとしても活用、安全安心な食や農、よりよい環境、人と生き物の賑わいづくりを水俣の田畑と散歩道から発信していきます。

耕作放棄地の拡大

地域の寂れの象徴?

心理的距離

物理的距離

…柵、草壁による農や自然と隔離

獣害

負のスパイラル

雑草繁茂

環境を護る

作物を育てる

人を誘う

農的な地域のにぎわい

農的効果

作物共栄

人的効果

防疫

緑肥

土壌改善

健康維持

防虫

防獣

食味改善

癒し

美容

益虫増集

益虫増集

益虫増集

益虫増集

益虫増集

香りの植物



- ①心躍る農的風景のある散歩道の共創…「香り」「彩り」「生き物の賑わい」を呼び水
- ②農との新たな縁づくりと農業イメージ改善…「臭い」から「いい香り」の農へ
- ③安全安心な食のかおりを届ける農の発信…「農薬」を「香りの植物」に転換

主なかおり樹木・草花の見ごろ

周年感じられる「香り」と「彩り」

春

夏

秋

冬

◆彩りと香り (散歩道入口)

ヒヤシンス (180)

◆フレンチラベンダー (30)

◆地域の食の香り

◆サフラン (300)

◆湿地の彩香

◆ルイジアナアイリス (60)

◆水面の香り

◆オオオニバス (10)

◆ハス (60)

◆熱帯スイレン (60)

◆ヒツジグサ (20)

◆地域特産物を育む香り

◆レモンマリーゴールド (100)

◆ミントマリーゴールド (100)

◆実りの香り

◆ブルーベリー (30)

◆クダモトケイソウ (10)

◆ホボエ (3)

◆ナツメ (1)

◆キンカン (5)

◆アマナツ (1)

◆フェイジョア (2)

◆パンペイユ (1)

◆山野の香り

◆サンショウ (10)

◆イノシシ防止の爽香

◆レモングラス (30)

◆レモンタイム (20)

◆自然に優しい新農香

◆イブキジャコウソウ (20)

◆セージ (20)

◆ブロンズフェネル (10)

企画実施場所



熊本県水俣市

月浦極川479-1

実施場所



企画の背景

…距離が遠くなる衰退した地域の農と散歩道

過疎化や一次産業の担い手不足から、耕作放棄地も目立ち、獣害なども地域内の多くの場所で増え、地域内の誰もが親しんできた田畑の中の散歩道は、柵や壁で仕切られるか、獣害と耕作放棄地の負のスパイラルによる雑草の繁茂で楽しむこともままならなくなっています。

かつて、田畑を通る道は、農作業の人が行き交うとともに、ドジョウやトンボを追いかける子どもたち、セリやヨモギを摘むお母さんたちの姿があり、そこを通る時、どこか地域の活気や生き物の賑わいなどを感じてきました。

本企画では、香りの植物を植栽することで、以下の3点を実現しながら、香りのある農地発、かつてとはまた違う地域の賑わいづくりに寄与していきます。

企画の狙い

…香りの植物で農や地域と「もやう」3つの柱

~「散歩道から食卓まで」生かし楽しむ香りの植物~

①心躍る農的風景のある散歩道の共創

植栽や維持管理作業には、農地の管理者の当団体が責任は持ちながら、日々の農作業で行うとともに、散歩の途中に、イベント時に、地域内外の方に参加していただきながら、**参加者自らが楽しめる香り**と**彩り**と**生き物の賑わいのある散歩道**をコンセプトに共創していきます

②農との新たな縁づくりと農業イメージ改善

植栽や管理過程でのイベントはもちろん、植栽した植物を用いた料理、雑貨づくりなどのイベントを切り口に、老若男女を問わない、一緒に地域の食や農、コミュニティをつくる側に立つ場づくりを積極的にを行います

香りの植物に農薬や肥料と同様の機能を発揮してもらうことで、「農のにおい=農薬や肥料の臭い」という負のイメージを、「**農=さわやかで心やわらか植物の香り**」へと刷新して、地域における農業のイメージを改善、また、**自由に食卓や家庭に持ち帰られる摘み菜可能な花壇を設置**し、誰もが接し易い農環境づくりを行います

③安全安心な食のかおりを届ける農の発信

香りの植物を農業における**コンパニオンプランツ (共栄植物)**、**インセクタリアープランツ (天敵温存植物)**等として活用し、無農薬有機栽培を行い、**安全安心な作物と、生き物の賑わう環境づくり**を両立させます。

本企画の取組みは、インターネット、作物の流通過程、地域内外での関連イベントで情報を発信し、環境首都水俣から「**香りの植物を生かした農と地域づくり**」にチャレンジし続けていきます。

企画名 合楽“香気圧広場”づくり

企画団体名 大橋町(合楽)指出区自治会2班
代表者 田島久通

企画の紹介文

筑後川と耳納連山にはさまれた田園地帯。合楽の指出神社横の大きなクスノキの下に不思議な花園広場が見えかくれ。花の香りが高気圧の風のように広がってくる。クスノキの大きな枝にぶら下がっているのはブランコかな。何かありそうで気になる風景。

そこには集い合っ楽しむ地域の憩いのオアシスがあった。

そこは地域で守り育てる香りの広場だった。

草木花の不思議な力が背中を後押ししてくれる合楽“香気圧広場”だった。

企画の狙い

- ①近所迷惑で除根されたばかりの竹藪跡地の広い裸地を利活用。荒廃地化防止を逆手に地域の広場づくり。
- ②好適な立地条件を活かした、合楽“香気圧広場”の創出により、植物の香りの効用啓発並びに地域活性化。アピールポイント

①当該地は部落の中央部に位置し指出神社が隣接。ほぼ平坦で、南側に胸高直径1mのクスノキ等の複数の大木が緑陰を供する。加えて、耳納連山の優れた借景を有し、地域利用・一般利用に好適な環境にある。

②全国有数の植木産地久留米市ならではの、長期的な維持管理を確保するための手法の取り入れ

○高齢化・人口減少が進む中であっても、身の回りの土地は自分で守る、地域住民が守っていく。そのためには、地域の材料や機械に頼らない人の手で、安く・楽に・長く続けられる園芸手法を取り入れる。

- ※安楽長園芸手法 ・安価な廃材利用・マルチング材:河川の除草枯草、廃木材・石材・瓦・アスファルト路盤等
- ・管理が楽な手法・除草手間を省く宿根グラントカバーの多用、管理容易な品種の選択
- ・長続きするための管理者のモチベーションの向上・人に喜ばれる仕掛け(イベント)

○久留米産ギンバイカ(福岡県の緑化木推奨樹種)を広場の中心部に、修景を兼ねて樹木系精油の原料としても利用できる修景・生産ゾーンを設ける。

・おりしも隣接町の福岡県緑化センターで今年度から植木屋達が造る樹木系アロマの6次産業化に向けた取り組み(精油蒸留の調査研究・生産事業)が始まった。

- ・植栽2年後には茶畑風となり、アロマ原料の提供で年間5~10万円程度の収益金が見込み。
- ・その収益金を緑地管理費に充当できるような仕組みを作り、長期的維持管理の確保に資する。

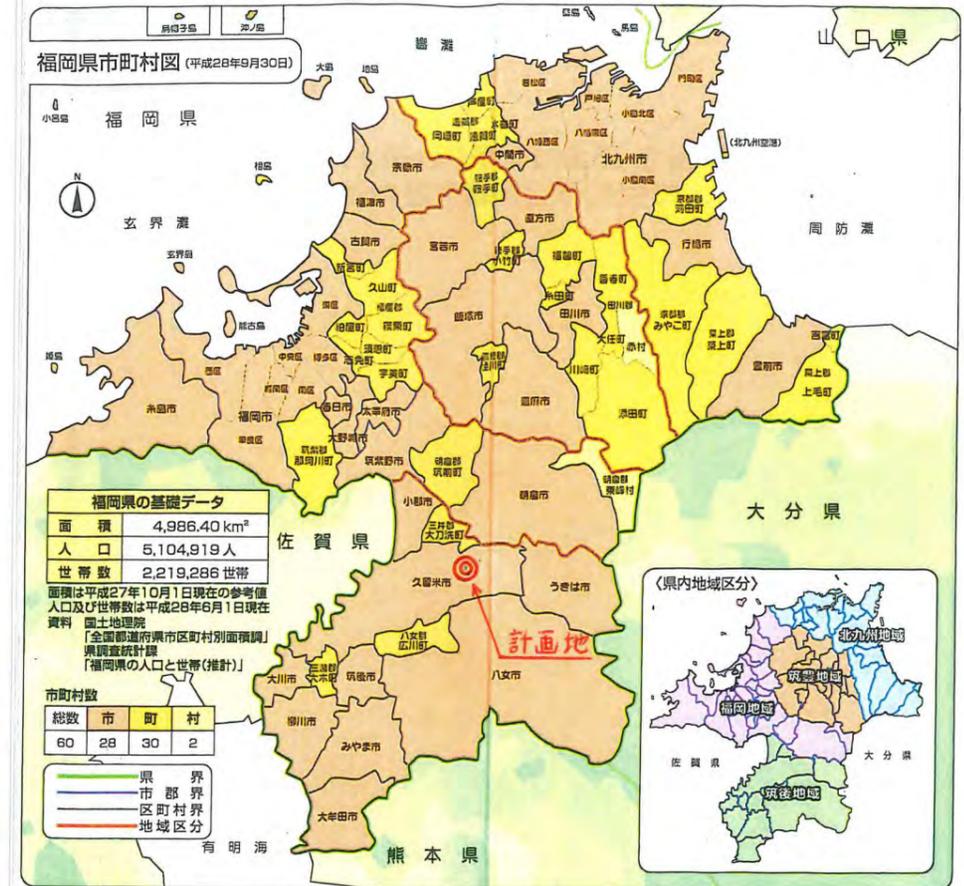
○県緑化センターとの連携により、香りをテーマにした緑の教室やレクリエーションツリークライミング等の導入

- ・ハーブ料理体験やアロマ石けんづくり、こけ玉づくりなどを隣接の公民館で開催・会場使用料の収益

○隣接の田島家・柳瀬家の庭で定着しているオープンガーデンに参入し、地域3軒で同時開催する。

(本オープンガーデンは、福岡・佐賀・熊本の3県広域で同時に毎年開催されているもの)

以上、地域住民や一般利用により合楽を香りでアピールし、植物の香りの啓発と地域活性化に資する。



※主に使用する植物、見ごろの季節(春夏秋冬:周年)

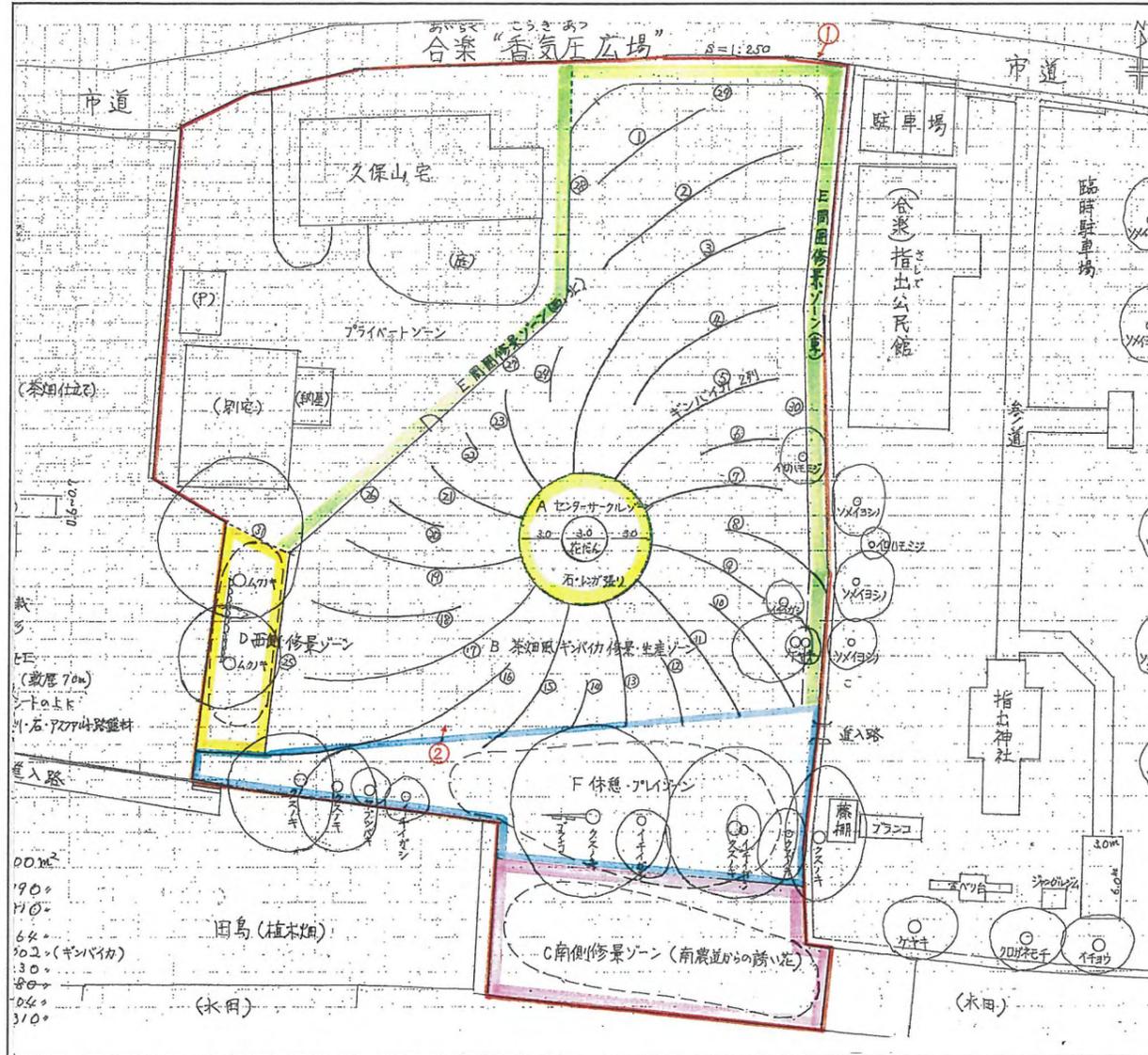
植物名	本数	見ごろ	植物名	本数	見ごろ	植物名	本数	見ごろ	植物名	本数	見ごろ
ギンバイカ	1,000	周年	トウオガタマノキ	20	春	アジュガ	350	周年	サルビア(チェリーセージ)	100	夏~秋
アザレア	105	冬~春	マツリカ(ルリマツリ)	20	春~夏	ブルーサルビア	425	夏	サルビア(ラベンダーセージ)	100	夏~秋
モクビヤッコウ	10	周年	ライラック	10	春	フレンチラベンダー	425	春~夏	サルビア(ワッパ)	50	夏~秋
バラ(フックアウト外)	74	春~秋	ローズマリー	10	夏	キチジョウソウ	600	周年	サルビア(センセーション)	50	夏~秋
ブルーベリー	30	周年	バイカウツギ	10	春	ラミウム(ガレオブロン)	300	周年	サルビア(コクネシア)	50	夏~秋
オタフクナンテン	56	周年	ツリージャーマンダー	10	周年	フィリノシラン	250	周年	ペロニカ(オックスフォード)	205	冬~春
ノボタン	45	夏~秋	ミントブッシュ	10	夏~秋	キャッツミント	115	春~夏	フロックス	150	夏~秋
ニーヨン	45	周年	ジンチョウゲ	5	春	サルビア(メーセージ)	100	夏~秋	クリスマスローズ	100	冬

※総数量: 80種 6,098本(樹木34種・1,662本+草花46種・4,436本) うち香りの樹木・草花2,506本(全体の41%)

企画名 合楽“香気圧広場”づくり

企画団体名 大橋町(合楽)指出区自治会2班 代表者 田島久通

樹木・宿根草等草花の配置図(平面図:真上から見た図)



主要な地点の成木時の予想図(企画実施後)



現状写真(企画実施前)



①北側から



②南側から



③30m南の農道から

将来予想(ギンバイカ)



企画名 癒しの森、香るヒーリングガーデン

～ 植物の香りが人を癒し、健康をもたらす、地域に開かれた病院の庭～

企画申請団体：  社会医療法人 平和会 吉田病院
共同企画団体：  あをによし奈良 Garden Link

12th
Contest
2017



1928年「あやめ池サナトリウム」として開設された吉田病院は、当時街頭一つあった「療給生活者の理想郷(サラリーメン・ユートピアの実現)」を病院の基本方針とした。
一万坪の広大な敷地内の庭園の池には水鳥が泳ぎ、四季の花々が咲き、森の中に点在する木造の病棟は、「赤い屋根の病院」として地域でも親しまれていた。

現在、その大部分が近代的な病棟に建て変わったが、来年2018年、病院創設90周年を機に、かつての「心象風景」を再生したい。
四季折々に咲く「香り植物・樹木」の植栽により香り空間を創出し、地域に開かれ、多くの人々の心を和らげる、「癒しの森、香るヒーリングガーデン」を創るプロジェクトがスタートした。

プロジェクトの鍵となるのは「香り」。
古くから「香り」は、人間の暮らしの様々なシーンで親しまれてきたが、近年の研究で人の心身の緊張を緩和し、免疫力を向上するなど、良い効果があると分かってきた。また同時に、植物や土に触れる園芸体験により、五感や体性感覚の回復が促され、ストレス軽減、意欲・食欲の回復、認知機能・社会性の向上等の効果があることが、病院・学校・介護施設等で認知されてきた。
病院の庭が、入院患者のケアやリハビリテーション、地域住民の健康促進の場として活用されることが大いに期待できる。

今回のプロジェクトでは、病院内の広大なオープンスペースにおいて、様々な「香り体験」ができるよう、「巡る庭」、「集う庭」、「彩る庭」、「実る庭」、「緑(えにし)の庭」、という5つの庭(右図参照)を設定した。

また5つのゾーン以外にも、新館前の駐車場スペースに、創建当時の桜並木(ソメイヨシノ)を想起する「春の並木ゾーン」、病院を南北に貫くメイン道路の両側に夏に青い花を咲かせるセイヨウニンジンボクを植栽する「初夏の並木ゾーン」をつくり、花と緑に囲まれたかつての病院風景を再生したい。

本病院は、地域に開放されており、院内通路は近隣住民の通勤・通学路としても利用されている。
病院関係者だけでなく周辺住民の憩いの場としても活用されており、日常的に多くの人が「香り環境」に触れている。

広大な緑地帯は、病院が運営する会員数約2万人を擁する「健康友の会」のグリーンボランティアチーム(約20名)が定期的に植樹やメンテナンス活動を行っており、患者や周辺住民との交流も盛んに行われている。

従来、病院は心身の病気の治癒の為に訪れる場所、とすれば閉鎖的な空間になりがちである。
しかし、その病院の庭が地域にも開かれ、季節毎に桜色や青に染まる名物の並木道があったとしたら？、香りのよい花や実る果樹があったとしたら？
そこには病院の患者のみならず、ますます多くの人が訪れ、交流が生まれ、ボランティアや健康促進といった社会活動の場となるだろう。

『心身の病を癒し、地域の人々の健康を促進し、社会に貢献する。全ての人に優しく寄り添い、心地良い香りに満たされた「癒しの森」となる庭を創ること。』

それは、まさに吉田病院創設時の理念とびたりと重なり合っている。

「眼科棟の建物の壁面に香りのつるバラを誘引。高台に位置するこの壁面は、近くを通る近鉄電車・奈良線の車窓からも眺められる。



現在の吉田病院



設立当時の吉田病院全景図



設立当時の姿を残す旧本館

戦後、「大衆のための医療」を使命として地域と共に歩んできた吉田病院は、来年2018年、創設90周年を迎える。その記念事業のひとつとして、敷地内の広大な緑地空間を四季の花々や木々で彩り、その香りや果実を楽しみ、患者や来院者、職員はもとより、地域住民の憩いの場とする「癒しの森、香るヒーリングガーデン」プロジェクトがスタートした。「赤い屋根の病院」として親しまれた、創建当時の花と緑にあふれた「心象風景の再生」と、人々の心を和らげる地域に開かれた「癒しの森/理想郷(ユートピア)の創造」がテーマとなっている。

メインガーデンとなるこの庭は、小高い斜面地に香り高いバラやハーブ、宿根草、香りの高木などを集中的に植樹。

香り
「巡る庭」

斜面を縫うように設けたスロープを巡り、「香り散歩」を楽しめる。同時に、風が吹き下りる度に、斜面下の道路を通行する地域住民にも香りが届けられる。



散歩で立ち寄った近所の幼稚園児たちが、庭で咲くバラの花の香りを嗅いで行く。子ども達の歓声が、病院に活気をもたらしている。



香り
「彩る庭」

香り
「実る庭」

香り
えにし
「縁の庭」

香り
「集う庭」



駐車場横の斜面地には、香る果樹を集約して植樹。柑橘の香りを楽しむとともに、果実を収穫する喜びを味わえる庭。

今年3月に長野県伊那市の切り花農家から譲り受けた約200株のバラ苗(詳細は、下部参照)を記念植樹。咲いた花は、病室等に届け、病室でも香り体験してもらっている。

創建当時から残るソメイヨシノの大木を中心に、藤籬とベンチを設置。ここでは健康友の会による花見会や音楽演奏会などのイベントが行われている。小さな池の畔の斜面地に水仙等香りの強い花々を群生させ、季節毎に咲く香り植物を楽しみながら、人が集い交流する庭としたい。

今年3月、バラの街、長野県伊那市の切り花農家のビニールハウスに遺されたバラ3000株の里親を募集するプロジェクトに手を挙げ、約200株の切り花品種のバラ苗を譲り受けることになった。
吉田病院グリーンボランティアの有志たちが、遠く長野県伊那市まで赴き、自らの手で遺されたバラを運び上げ、約300キロ離れた奈良市まで持ち帰った。
現地では伊那市のボランティアチームとも交流することができ、お互いの活動状況を話し合った。
持ち帰った伊那のバラは、病院内に設けた特設ガーデンに植樹し、その大部分が無事活着し、早速、花を咲かせた。
来年創設90周年には、長野県伊那市のグリーンボランティアチームを招待して、伊那バラフェスタも計画中で、民間レベルで奈良市・伊那市の交流を深めていきたいと考える。



伊那市・奈良市のボランティアチームの交流



吉田病院の伊那バラガーデン

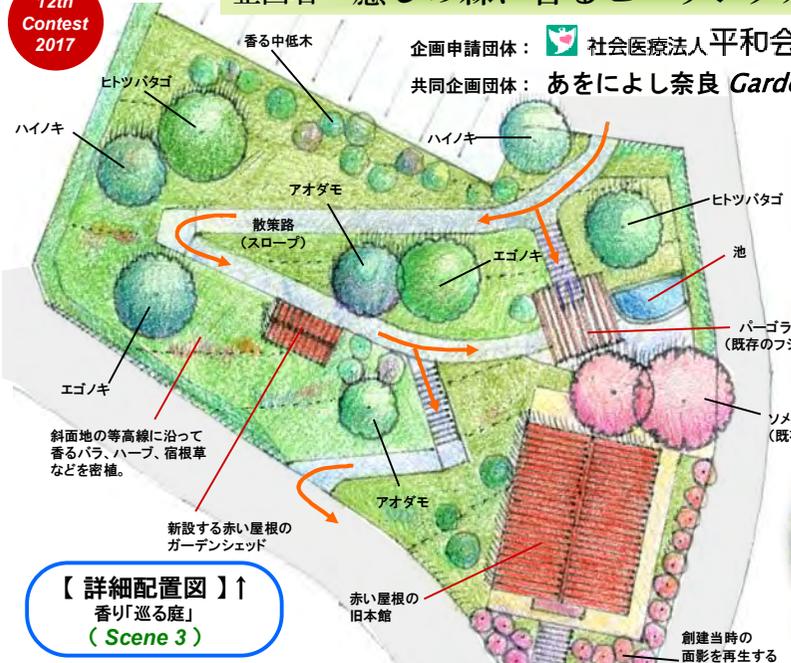
香りの植栽リスト

Month	Plant 1	Plant 2	Plant 3
March	ウメ	スイセン	ニオイミレ
April	ソメイヨシノ	エゾムラサキツツジ	フリージア
May	バラ	スズラン	アオダモ
June	ライラック	エゴノキ	セイヨウハイカウツギ
July	ユズ	フロックス	ニオイバマンツリ
August	セイヨウニンジンボク	カシワアザサイ	ラベンダー
September	ギボウシ	ローズマリー	ブラックベリー
	タマノカンザシ	オリーブ	ブッドレア
			セイヨウニワトコ

12th Contest 2017

企画名 癒しの森、香るヒーリングガーデン

企画申請団体: 社会医療法人平和会吉田病院
 共同企画団体: あをによし奈良 Garden Link



【詳細配置図】↑ 香り「巡る庭」 (Scene 3)



完成予想 パース

使用する樹木			
シーン	樹木名	本数	本数
1	サクラ(ソメイヨシノ)	17本	10本
1	サクラ(枝垂れ桜)	1本	10本
1	ウメ	1本	1本
3&7	エゴノキ	3本	3本
3&7	アオダモ	3本	3本
3&7	ハイノキ	3本	3本
3&7	ヒトツバタゴ	2本	3本
5	オリーブ	1本	20本
5	ユズ	1本	25本
5	レモン	1本	50本
5	カンシ	1本	10本
4	セイヨウニンジンボク	10本	20本

使用する宿根草等、草花			
シーン	草花名	株数	株数
3	スイセン	200株	20株
3	ニオイタツツジ	200株	30株
3	フリージア	50株	20株
3	スズラン	100株	20株
3	フロックス・ディバリカーブ	20株	50株
3	キボウシ・タマカンザシ	50株	50株
3	フックベリー	5株	50株
3	カラマツ	25株	50株
3	クワリセイジ	30株	50株
3	スイートピー	30株	100株
3	ツルバキア	50株	200株
3	ヒヤシンス	50株	50株

【代表的な高木の植樹ポイント】

- ソメイヨシノ 枝垂れ桜、ウメ
- ニオイタツツジ エゾムラサキツツジ
- セイヨウニンジンボク エゴ、アオダモなどの香る高木
- ユズ、オリーブなどの香る高木(果木)



香り「彩る庭」 Color Garden

香り「実る庭」 Harvest Garden

香り「巡る庭」 Circulation Garden

香り「集う庭」 Community Garden

香りえにし「縁の庭」 Relationship Garden

斜面の庭の最頂部にあたる高台の建物の白い外壁には、遠く電車の車窓からもはっきり見えるような彩り鮮やかな大型のつるバラを誘引し、修景。足元には香りの強い小型のつるバラも組み合わせ、散歩する人が顔を寄せて香りを嗅げるよう工夫する。

駐車場に面した斜面に、ユズ、レモン、オリーブ、ブラックベリーなどの実がなる果木、草花を植栽。その実を患者が収穫体験することができ、五感で楽しめるガーデンセラピーの庭とする。

創建当時の赤い屋根の建物をイメージした、赤い屋根のガーデンシェッド(小屋、東風)を新たに設置する。

香りの強い木立性のバラやラベンダー、ローズマリーなどハーブ系香り植物を植栽した斜面地。縫うように設けたスロープを巡りながら、舞い上がる香りに身をゆだねる「香り散歩」を楽しむガーデン。

桜の大きな木陰に藤棚とベンチを設置。小さな池もあり、散策中の人々が足を止め、滞在する庭には、香りの強いフリージアやスイセン、スズラン等を群生させ、辺り一面に香りを漂わせる「香り空間」をつくりたい。

長野県伊那市から持ち帰った約200株のバラを植樹した伊那バラガーデン。この花壇にソメイヨシノ(桜)を列植し、「赤い屋根と桜並木の病院」と謳われた原風景を再生する。

旧本館横のアプローチ道路の両側に、夏に青い花を咲かせるセイヨウニンジンボクを列植し、並木道を創りたい。旧本館横には、創建時の面影を再生するツツジを植栽し、建物と一体的に修景する。

駐車場の出入口正面の花壇には、シンボルツリーとして枝垂れ桜を植樹したい。

新館入口へのスロープに設置されたパーゴラを活用して、シャワー状に枝垂れて咲くランプライ品種のつるバラを誘引し、トンネルのように咲くバラを誘引し、「香りのプロムナード」とする。

【敷地全体配置図】

5つの「香る庭」の配置と、7つのシーン(風景)の配置図



病院の正面入口、車寄せの花壇にはチューリップ、ムスカリ等の球根植物を植えているが、正面入口として相応しい風景をつくるため、ここに、シンボルツリーとして、ウメの大き木を植樹したい。

